

令和2年度 長野県食と農業農村振興審議会 木曾地区部会 議事録

令和2年8月4日(火) 午後1時30分から、木曾合同庁舎講堂において令和2年度長野県食と農業農村振興審議会 木曾地区部会を開催しました。

1 出席委員 五十音順 (敬称略)

梅本 ふさ子委員 農村生活マイスター木曾支部長
奥牧 宏明 委員 木曾郡農業委員会協議会長
塩澤 郷子 委員 ふるさと体験館 きそふくしま職員
志水 敏春 委員 木曾農業協同組合野菜生産部会長
下野 昌一 委員 大桑村長野西地区活動組織代表
高橋 忠久 委員 「道の駅」木曾川源流の里きそむら 駅長
田屋 万芳 委員 木曾農業協同組合代表理事組合長
長渕 充章 委員 長野県農業経営者協会木曾支部長
原 恵美子 委員 どぶろく研究会副会長
東 大平 委員 木祖村産業振興課長 (改選)

2 次第及び議事録

(1) 開 会

(2) 中坪 成海 木曾地域振興局長 あいさつ

(3) 部会長選出

部会長 田屋 万芳 委員 木曾農業協同組合代表理事組合長

(4) 会議事項 (議長 田屋 万芳)

ア 木曾地域の概況について (資料1)

(質問意見はなし)

イ 令和元年度木曾地域実績について (資料2)

【高橋委員】

稼げる農業という項目の中で、販売額1千万というのは7品目あるがどの様に推進品目を決めたのか。

サトイモが推進品目として記載されているが、関係する道の駅でサトイモを売ってる直売所を見ない。どこへ出荷しているか、将来的に1千万円稼げる農業になるのか。

品目を上げるのはよいが推進品目は、今現状としてどの位の金額が出てくるのか、或いはどのくらいの出荷額を目指すのか等分析が必要では。

木曾牛、はくさいの様に具体的数字が見える様にすべきでは。

【事務局】

南木曾町で、サトイモを推進品目として取り組んでおり展示試験段階である。

販売は大桑の直売所で数量的には少ないが販売している。

1千万以上の品目にはまだまだほど遠いが、南木曾町では遊休荒廃地がありその遊休荒廃地対策として、サトイモ栽培の試験展示調査をしている状況。

1千万円以上の品目は、なかなか一長一短には出来ない。手掛かりとなる地域で、生産意欲のある人・興味のある品目を選び育てる段階である。

数字的な目標等々について今後課題にしていく。

【高橋委員】

木曾郡内ですんき、赤かぶに力を入れている状況は分かる。現状は7月、8月にすんき・赤かぶ漬けが残っている。私共も郡外への販売に苦慮している状況。木曾ではなじみの食材であるが外へ向けた販売方法を考える必要がある。

参考に雑穀は非常に値段が上がっており特にえごまについては、買い入れ価格1200円から始まって1500円、1800円である。

今、業界ではえごまが不足でキロ 3000 円でも求められており、1 年 2 年で 3 倍位になっている、地元のえごまが不足している状況を踏まえ、木曾地域の生産量等、数値的な把握をして頂きたい。

【事務局】

すんきにつきましては、外へ向けての PR が不足しているとの意見ですが郡外等への消費拡大等今後検討しなければならない課題である。

数値的な目標等々ある、令和 3 年度の課題にして掌握していく必要がある。

【原委員】

木曾農業の情報発信のため、県の東京・名古屋・大阪事務所と管内スキー場で就農促進のリーフレットを配布とあるがどのような様なパンフレットなのか。

スキーに 5 万から 7 万人くるうちの就農している人がどの位居るのか。

重点取組 5 の荒廃地対策で、そばが入ってない。木曾谷のそばは、知名度の高いそばであり振興品目へ取り上げたらよいのでは。

また、重点項目の木曾らしく農業の個性を高め伝統食で人をつなぐで、現状ではすんきの計画 44 t、目標 50 t とあるがどのようにして作っていくのか。目標と現状とあまりにもかけ離れているのでは、なぜビジョンでこういう数値を出したのか。

【事務局】

すんきにつきましては関係方々からは売れ残っているという話も聞こえている。

昨年度の実績につきまして、すんきは本来 2 月 3 月に売上が伸びるところ、今年新型コロナウイルスの影響もあった。

今後それらも踏まえ PR を考えていかなければいけない時期に来ている。皆様から、お知恵を頂きながら、売り方を考えて行く。

すんきにつきましては、現在イベント等も出来ない状況の中で、木曾地域へ来てくれとは言えない状況。新たな情報発信方法を検討したい。

振興品目にそばの記載が無いとのこと。実績に記載のある内容は、今後の技術的支援についてであり、そばは重点的な品目として取り上げている。

そばについては、以前から木曾地域では、遊休荒廃地対策を兼ねて栽培をし、技術支援等を実施している。今後も支援をさらに進めて行く。

すんきの生産量がかけ離れているとの指摘ですが、木曾は過去の調査では生産量が 20 t 台、その後一時期すんきが非常にブームになった事、生産に熱心な木曾町を中心に生産を伸ばしていく計画を立てた経緯があり現在の目標となった。

現状去年より生産量が減少しているが、昨年は気象等の影響で原料のカブ自体の生産が少ない状況から、生産量が落ちている状況。

委員のご指摘の通り、現状は目標数値との乖離が有るという事実があるので、ご意見頂いたので、了解頂いたら検討し見直しをかけながら取り組んでいきたい。

「就農促進パンフレット」についてご説明させていただきます。平成 30 年に地域振興局の局内の振興推進費を活用し、リーフレットについては A5 版、お手元のは A4 版のカラー刷りの物を 1000 部作成し、合わせて就農促進 PR 動画を作成した。

動画については、御嶽はくさいと繁殖和牛について作成した。

今後動画サイトへ何らかの方法でアップロードしたいと考えている。

就農促進リーフレットにつきましては、木曾の藪原スキー場に配布、その他につきましては各町村、木曾観光協会、中津川市と塩尻市へ 50 部配布をしている。

県外では長野県の東京・大阪・名古屋事務所の方へ各 50 部配布している。

委員の皆様の御目に届かなかったと言う事では大変申し訳なく思っている。

ウ 令和 2 年度木曾地域実績について（資料 2）

【田屋部会長】

令和 2 年度の木曾地域の振興計画について説明頂いた。合わせて、6 つの重点取組についても詳細に説明を頂いた。

ここで特に推進に当たってのご提案やご意見を頂戴したい。

【高橋委員】

事前に資料が配布されている、説明は簡単で良いのでは。
意見をもっと聞く時間が必要では。

【事務局】

申し訳ありませんでした。

【高橋委員】

御岳はくさいについて、観光の中で地元の物を買えるようにしてもらいたい。

重点取組4の、木曾ならではの商品、振興及び観光と連携の中、そば、木曾牛、すんきがあるが、はくさいも入れるべき、一番生産量も多くて稼ぎ頭である。

提案ですが、道の駅が管内に4店舗有るそれらで、はくさいを取り扱ってもらいたい。

道の駅ですと1週間1ケース程度60玉位、木曾の30万ケースの目標の中で、管内の道の駅で30万ケースの内、500ケースを4店舗に振り分けてもらいたい。

道の駅でしたら段ボールも必要ない。長野県の木曾の人は「御岳はくさい」ブランドを食べた事が無いのではないか。

今木祖村産はくさいで、一玉280円で毎日売れてしまう事例もあるので是非お願いしたい。

稼げる農業、稼げる品目とがあるが、稼げる農業の中でなぜ花木と、さやいんげんの収穫調整なのか？稼げる農業の推進になるのか。

えごまの値段が非常に上がっている、他に雑穀類、モチキビ、が1年前と比べても価格が倍以上になっている推進品目としてはどうか。

年寄りの人が一番嫌がるのが、最後に収穫した後の選別である。選別方法について、えごま・雑穀について県で検討いただければ本当に稼げる農業になると思う。

【志水委員】

御嶽はくさいにつきましては、昨年のご意見有りましたし、要望もお聞きしました。

なかなか要望にお応え出来るかどうか分かりませんが、部会で1回話を纏めてみたい。

1年2年で解決できるかどうか分かりませんが、農協とも話をしながら前向きに検討してみたい。

【事務局】

私共の方も審議会の御意見頂きましたので一緒に考えさせて頂きたい。

雑穀の方も貴重なご提案ありがとうございます。すぐには収穫後の選別技術についてはご回答できない内容ですので、今後検討させていただくことで了解頂きたい。

【志水委員】

御岳はくさい品質向上と適正生産及び代替品目の検討の重点計画という事で中間年度に当たるが、進捗状況の確認と集計どの様にしているのか。

毎年天候不順によりそばの栽培に苦慮している。木曾のそばはブランドで、色んな場面で木曾のそばは出てきている、その点について県はそばをどのような支援対象として、位置付けをしているのかお聞かせ願いたい。

【事務局】

御嶽はくさいについては普及センターの重点取り組みに位置づけ、毎月重点会議を開いて進めている。

生産者の労働負荷軽減技術としては、アシストスーツについて今年も引き続き取り組んでいく。個別農家の支援については、月1回以上巡回し、課題を一緒に解決できるよう提案をしている。

御嶽はくさいの昨年度の実績は目標に届かないが、目標を達成するために皆さんと共に取り組んでいきたい。

そばについては、7月の豪雨で圃場に度に入れない状況であり、播種の遅れによる収量低下が心配される。

経営所得安定対策で播種が実施できれば交付対象になるので、生産者へ周知していきたい。

そばの生産振興の中では、長野県では信州ひすいそばを推進している。

これまで、長野S8号と言う品種を使っていたが、長野県では桔梗11号と言う品種へ来年度一気に変える方針。

今年度、大桑村の生産者の方に、実証栽培試験をしてもらう。

この品種の特徴は粉の色で、一般のそばと比べ緑が強い。木曾地域に適しているか実証試験を実施する。状況については今後説明をしたい。

【志水委員】

開田地区は17~18年前に、農地整備でいい畑、田になったが作付けできない圃場も増え、そこには殆どそばを作っている。

水田へのそば作付けは雨の多い年は駄目で、排水対策の基盤整備を要望したい。

そばの収量は開田辺りで単収60kg位。そばでお金を取ろうと思ったら単収80kgから100kg必要でその辺の整備が必要だが支援策はあるか。

【事務局】

水田を畑作物のそばにしたいと言う要望をお聞きしました。

県内では、水田からの畑作物への転換は、進んでいる所も有る。

木曾もそばに頼っている状況である、水田から畑地化には整備事業のメニューが有り木曾町開田では暗渠排水を行っている。地域の意向があれば支援をしたいと考えている。

【奥牧委員】

クラスター協議会の設立に対して生産者への説明が不足しているのでは。JA等が中心となって作って頂けたら良いが早急をお願いをしたい。

畜舎建設希望者に早急に国の補助事業の導入ができるように対応を進めるべき。

すんきについて、夏場になると消費が少なくなる。木曾町においては、味噌汁等のフリーズドライ加工で製品にしたものを試作している。

加工品の販売についても全体の中へ含めて方針を出して行くのはどうか。

それから、中山間整備事業の関係であります。現在、自己負担なしでできる事業であるがどのような内容か。

また、小水力発電について取水している場合は、水利権が必要とのこと、漁協が強固に反対していると言う話も聞いたが、その辺はいかがか。

【事務局】

クラスター協議会は木祖村が最初に設立、南木曾がここで設立され、管内2つである。

他の町等にも設立支援を行っている状況で施設整備をするためにもクラスター協議会設立が要件となることから対応を進めている。

すんきの商品化は、木曾町が中心に木曾地域が一体的に進めている状況。新たな商品の開発・販売もこれからともに検討したい。

【事務局】

農業用水を活用した小水力発電の水利権については、河川から農業用水の為に取水している用水を利用して発電し、下流に放流することから河川の流れに影響するものではなく問題ない。漁協とも確認している。

上松町、南木曾町について現在、建設を進めているところである。

【事務局】

農家の負担が無くて出来る様な圃場整備について、上松町の中山間地域総合整備事業には中山間地域であることから補助金が上乘せされている。県もある程度上乘せ負担をし、残りについては、町村さんの負担金徴収条例等に基づいて、農家負担があるかと思う。

国では農地中間管理機構を活用した事業として、農地を集積・集約し、農地に中間管理権を設定し、そのうちの8割を担い手に集積するような整備であれば、農家負担なしで出来る様な事業

が想定されている。上手に法人などに集積できれば可能である、希望があればご相談いただきたい。

エ 全体討議

【田屋部会長】

皆さんから色んなご意見頂戴いたしました、ありがとうございます。
これから全体討議を続けさせていただきます。

【梅本委員】

中山間地の直接支払いは今年切り替えであった。

私の集落は、8軒ほどの小さい集落で高齢化が年々進み、草刈りが大変な状況である、集落全体で協力し草刈りに取り組むことで今年は継続できた。

直払いは、日当・燃料代・草刈り機の替え刃等を購入でき助かっている。制度の継続をお願いしたい。

開発センターでえごまの搾油を行っているが、昨年は雨が多く不作で搾油をしても少ない状況であった。

今年も、雨が多く播種が遅れている状況。エゴマ油は上松町のふるさと納税の返納品と固定客からの事前予約が多く、来年の予約もすでに入っている状況であるが原料の確保に苦労している。

えごまは、天候に左右されやすく、安定した収量の確保が課題。収量向上へ向けた技術的支援が必要。

【東委員】

木祖村には農業法人等が無い状況である。木曽地域の他の町村や、特に松本地域、安曇野地域には農業法人が多く活動している様子。

法人が活動するには、木曽は冬場は殆ど作物が出来ない状況で仕事が無い。畜産については年間を通し仕事があるのでこの組み合わせが良いのでは。

若い方々が法人を作り、若い方が法人に就農できるような取り組みが必要では。

就農支援については、支援センター等関係機関に応援をして頂いている。法人の設立等についてこれからは是非力を入れて行きたいので支援を願いたい。

【塩澤委員】

ふるさと体験館木曽福島では、すんきの漬けこみ体験を実施しており人気もある。

報告では、南部の方でリレー栽培へ取り組み、原料確保も大分確立されてきた様子である。

すんきの材料は地元の物が良い。福島、王滝、三岳で作っている物と南部で作っている物と菜っ葉の味と質が違うと思う。

しかし、地域で栽培される方が少なくなり福島だけの原料では足りない状況。他の地区でも栽培を増やす取り組みは必要。

温暖化により、すんき用かぶの葉を作るのが難しくなっている。体験館で使う原料も葉の部分が不作である。

播種時期も昔と変わり、虫も多くなり今後栽培ができなくなるのではと危機感を感じる。今後も原料の確保について技術支援が必要。

すんき用かぶの種の維持について技術支援が必要。農家で栽培していると混ざってしまい早急に種を守る取り組みをお願いしたい。

地域の販売所の種コーナーを見ると、飛騨かぶ等が普通に売られていることから交配しないか心配。伝統野菜のカブ栽培者へ注意喚起をして欲しい。

木曽の郷土料理に朴葉巻がある、朴葉巻は米、あずきを1年間かけて栽培するなど、農家の作業と密接に結びついていることを伝承して行きたい。

一連のつながりを子どもや達若い世代へ教育をしていく必要がある、興味を持った人が新たな切り口で木曽の農業へ取り組む人が増えるのでは。

【志水委員】

この7月、水災害が多かった。その中で多面的機能支払い制度を利用し、速やかに水路を直すことができ、この制度により地域の水路の維持ができています。

木曾の地域は、小さな集落の小さな農家で多くの水路等を維持している。個人で水路を修理するには費用的にも難しい中、本制度の継続は地域農業維持に大切である。

【原委員】

民宿を経営していますが、コロナの時代で今まで私たちが経験した事の無い苦しい状況である。新型コロナへの新しい生活様式、感染防止をしながら、経済も回さなければいけない。県や国や村の支援金が無くては生きていられない状態でこの難局を如何に乗り越えるか難しい。

私が所属するどぶろく研究会の総会では、みんなで力を合わせて、この難局を皆で乗り越えることで決議した。関係機関で観光業についても支援を検討してもらいたい。

木曾地域は、高齢化率が高まり人口減少が進んでいるが、適地適産、地産地消を改めて邁進して頑張っていきたいと思う。

【長淵委員】

南木曾で酪農を営んでいるが、酪農家も段々少なくなってきている。木曾にも何人か新しく農業を始める方がおり非常に感激している。ぜひ頑張ってもらいたい。

今後さらに機関で連携した支援をしていただければ有り難い。

【高橋委員】

道の駅で運営をしており、昨年12月に農産加工センターができた。

加工所の施設では、特にセラミカ乾燥機が優れているため、きのこや野菜など、地元産の農作物の加工品開発などへ積極的に協力したい。

試作は低価格で行うので、地域の皆さんの相談を待っている。

長野県の中ではきのこが非常に多いが、きのこについて木曾は何も触れていない。木曾でも、2億くらいの売上が有る。その辺も施策に反映するべきでは。

【下野委員】

大桑村は農業後継者、担い手がこれから益々居なくなる。地域の担い手、農業の担い手として活躍してもらい、法人化組織の育成が今後の課題であることから支援をお願いしたい。

【田屋部会長】

委員からのそれぞれ貴重なご意見、ありがとうございました。

先ほどから「PRを」と言う話が出ている。

長野県JAグループとしても、毎年夏野菜の販売促進PRを行っていいいますが、今年の新しい試みとして、東京都内の電車内でテロップを10秒ほど流している。

また、新聞広告ですとB5判、A4判でも、500万円ほどがかかってしまうが、今年は、新しい取組として、YouTuber(ユーチューバー)をお願いした。その方は料理が好きな若い女性で長野県の夏野菜の料理をYouTube(ユーチューブ)で流してもらった。フォロワーが35万から40万人おり、今までの広告よりも多くの方が見ている。これは一番リアルな取り組みだと思う。

PR方法について、新しい取り組みとして提案します。

また、すんきの新たな取り組みとして、王滝村で力を入れ「夏すんき」をJAも協力して製造し、長野県のAコープチェーンに販売し、完売している。

夏すんきの考えは、新たな販売方法であると思い情報提供します。

【田屋部会長】

皆さんから、非常に多くの、幅広い意見頂戴しました。

また、その意見を県の審議会の方へ報告をさせて頂きたい。

ご熱心に審議を頂きまして誠にありがとうございます。私からもお礼申し上げます。
これで議長を退任させていただきます。